

アンソロピックの『Claude Cowork』と競合比較に基づく知財業務活用レポート

エグゼクティブサマリ

Claude Coworkは、ローカルファイルを直接読み書きし、長時間タスクやスケジュール実行まで担える「エージェント型」デスクトップ体験として設計されています。具体的には、ローカルファイルへの直接アクセス、複数サブエージェントの協調、Excel/PowerPoint等の成果物生成、会話のタイムアウトや文脈制約に阻まれにくい長時間タスク、定期実行（/schedule）などが中核機能です。 ¹

一方で、Coworkは「研究プレビュー」であり、会話履歴は端末ローカル保存、かつCoworkの活動は監査ログ・Compliance API・データエクスポートに記録されないため、規制対応や厳格な監査証跡が必要な業務に使うべきではない、と公式に明示されています。 ² さらに、プロンプト・インジェクションや、ブラウザ/拡張/コネクタ（MCP）経由の攻撃面、アプリ間の意図しないデータ移送など、エージェント固有のリスクが強調されています。 ³

日本の知財担当者（弁理士・企業知財部）の観点では、Coworkは「資料・表・ドラフトの作成や整形」「大量資料の要約・比較表化」「社内ナレッジの再利用」を高速化し得る一方、**機密性・説明責任・ログ保存が重い案件（出願前の発明詳細、係争/侵害評価、契約交渉、クライアント秘情報）では、統制設計なしに使うとリスクが過大**です。これ自体、日本弁理士会 ⁴ のガイドラインが「生成AIの出力は正確性が保証されず、最終責任は弁理士が負い、検証なしの提供は善管注意義務違反のおそれがある」こと、また「ハルシネーション」等の誤りを前提に吟味が必要であることを明確に述べています。 ⁵

競合（GPT-4o、Google Gemini、Microsoft Copilot）との比較では、**テナント境界・監査・運用統制**の観点で、Microsoft 365 Copilot/Google Workspace内のGemini/ChatGPT Business/Enterpriseは「既存権限の尊重」「監査ログ」「管理者制御」「データ保護コミットメント」を前提に設計されやすく、知財業務の「証跡が必要な運用」と相性が良い傾向があります。 ⁶

本レポートの結論は、**Coworkは「低～中リスク領域の生産性を押し上げる“端末内ワーク支援”として非常に有望だが、知財財務では「監査・ログ・データ統制」を補うガバナンス設計が不可欠**という点です。特に、^①専用作業フォルダ、^②MCP/プラグインの審査制、^③スケジュール実行の制限、^④人間レビューとエビデンス保存、^⑤用途別に“使う環境を分ける”二層運用（Cowork＝整形・下書き、統制型基盤＝機密案件）を推奨します。 ⁷

調査の前提と方法

本調査は、2026-03-15（日本時間）時点の公開情報を対象に、(1)公式製品ページ/公式ドキュメント、(2)政府・業界ガイドライン、(3)主要メディアのレビューや報道を優先して整理しました。 ⁸

また比較対象のうち「GPT-4o」は“モデル名”であり、製品（ChatGPT）側の提供状況が変わり得る点に注意が必要です。実際に、GPT-4oは2026-02-13以降ChatGPTから廃止され、API提供は継続とされています。 ⁹ したがって本レポートでは、**モデル単体の優劣よりも、知財部門が業務に組み込む際に重要な「統制・連携・証跡」**を中心に評価します（ただし求められた比較軸にはすべて触れます）。 ¹⁰

Claude Coworkの製品理解

Coworkの設計思想は「チャットで答える」から一歩進み、**ローカル環境のファイルやツールを使って“成果物を作る/更新する/継続実行する”**へ寄せた点に特徴があります。ローカルファイルへの直接アクセスや、Excel/PowerPoint等の成果物生成、複数サブエージェントの協調、長時間タスク、スケジュール実行が明示されています。¹¹

一方で、知財業務で最初に押さえるべき“制約”も同じ公式ドキュメントに強く書かれています。Coworkは会話履歴を端末ローカルに保存し、監査ログ・Compliance API・データエクスポートに記録されず、**規制対応が必要な業務に使わない**ことが求められています。²
また、スケジュールタスクは「PCが起動中かつデスクトップアプリが開いている間のみ実行」とされ、夜間バッチ等の運用には端末側の管理要件が生じます。¹²

エージェント固有の安全課題として、公式は(1)機密ファイル権限の付与を慎重に行う、(2)プロンプト・インジェクションの兆候を監視する、(3)スケジュール実行は低リスクから始める、(4)ブラウザやWebアクセスを信頼できる範囲に限定する、(5)未知のMCP/プラグインに注意する、といった具体策を列挙しています。³
さらに「あなた（利用者）が、Claudeが代理で行った行為も含め責任を負う」ことも明示されています。

¹³

Coworkの拡張点は、プラグインが「skills / connectors / sub-agents」を束ねる形で提供される点で、知財部門では“用途別テンプレート化（調査用、起案用、レビュー用）”に活かしやすい構造です。¹
一方で、コネクタはMCPを用いたサードパーティ実装が多く、OAuth接続時に各提供者の規約・プライバシーポリシーが提示される、という重要な前提があります。¹⁴ したがって、「**つなぐ前の審査**」が知財の現場では実質必須になります（後述のチェックリストで具体化）。¹⁵

MCP自体は、AIが外部ツール/データに安全に接続するためのオープンなプロトコルとして紹介され、エコシステム拡大を前提に設計されています。¹⁶

競合比較

比較対象は「エージェント/コラボ/ナレッジ統合」という“業務基盤”として捉えると、以下のように整理できます。

- ChatGPT Businessは「セキュアな共有ワークスペース」「ユーザー管理・利用状況トラッキング」「社内ツールへの接続」「SAML SSO/管理者ロール」など、組織利用の枠組みを前面に出しています。¹⁷
- OpenAIのエンタープライズ向けプライバシー方針では、Business/Enterprise等の業務データは原則トレーニングに使わない、保持期間を（Enterprise等で）制御できる、等のコミットメントが明記されています。¹⁸
- 監査・証跡面では、Compliance Logs Platform（Compliance API）の保持が30日で、長期保持が必要ななら継続ダウンロードして自社保持する、削除後も内部保持は最大30日、などが明示されています。¹⁹
- APIプラットフォーム側は監査ログAPIで、APIキーやユーザー/招待、ログイン失敗、設定更新等のイベント追跡を提供しています。²⁰
- ただしGPT-4oは2026-02-13以降ChatGPTでは利用不可（APIは継続）であり、知財部門のUI利用は“現行モデル前提”で設計すべきです。⁹

Google Workspace内のGeminiは「既存のWorkspace権限・保護（DLP/IRM/CSE等）を前提に、ユーザーがアクセス可能な関連コンテンツのみ取得し、組織のWorkspaceデータを学習/広告に用いない」と明記しています。²¹

また、管理者向けにはGeminiのログイベント参照（管理コンソール）や、監査ログのReporting API提供が案内されています。²²

2026年以降は、標準アクセスを多くのBusiness/Enterpriseプランに含めつつ、より高い利用上限を提供する「AI Expanded Access」「AI Ultra Access」へ段階化していく方針が告知されています。²³

Microsoft 365 Copilotは、同一テナント境界の権限モデルを前提に「ユーザーがアクセス可能なデータのみをグラウンディングする」「感度ラベル/暗号化（Purview）による利用権限を尊重する」等、既存統制を継承する設計が明記されています。²⁴

監査ログについては、CopilotやAIアプリに関するユーザー/管理者アクティビティが監査（Standard）として記録される旨や、非Microsoft AIアプリの監査ログを180日保持する従量課金モデル等が説明されています。²⁵

さらに、Copilot CoworkはMicrosoft 365のセキュリティ/ガバナンス境界内で動作し、**アクションと出力が監査可能**で、保護されたサンドボックスクラウド環境で継続実行できる、とされています。²⁶

またMicrosoftは、AnthropicモデルをMicrosoft Online Servicesの一部として提供するため、Anthropicをサブプロセッサとしてオンボードした、と説明しています。²⁷

外部データ統合の手段としては、Copilotコネクタが「同期（Graphへ取り込み）」「フェデレーション（MCPサーバーからリアルタイム取得、Graphに保存しない）」の2系統を説明しており、後者は“非蓄積”統合として知財のデータ主権設計に示唆があります。²⁸

機能比較表（知財部門の実務観点）

比較軸	Claude Cowork	GPT-4o (OpenAI) / ChatGPT Business・ Enterprise	Google Gemini (Workspace内)	Microsoft Copilot (Microsoft 365 Copilot)
コラボレーション	端末中心の作業（フォルダ指示など“作業場”概念）。 ¹	共有ワークスペース、ユーザー管理・利用状況トラッキング。 ²⁹	Workspace (Docs/Drive等) 上で既存共同編集と併走。 ³⁰	既存Microsoft 365 (Word/Teams等) と統合、Work IQ等で業務文脈を活用。 ³¹
ドキュメント編集	ローカルファイルを直接読書き、Excel/PowerPoint成果物生成。 ¹	スプレッドシート分析・可視化、社内ソース接続。 ²⁹	Docs/Sheets/Slides等のサイドパネルで生成・編集（既存権限を適用）。 ³²	感度ラベル/暗号化を尊重しつつ生成・要約等。 ³³
検索・ナレッジ統合	MCP/コネクタで拡張可能だが、コネクタは第三者規約・OAuth前提。 ³⁴	「社内ツールへ接続」して権限尊重の回答を作る、と示される。 ¹⁷	Workspaceデータにアクセスし要約/分析。ログ/監査も提供。 ³⁵	Graphに同期/非同期（フェデレーション）統合。フェデレーションはGraphへ非保存。 ²⁸
プラグイン/コネクタ	プラグイン=skills/conn/sub-agentsの束。未知のMCP/プラグインは攻撃面増。 ³⁶	内部ソース接続（詳細は契約/設定に依存）。 ¹⁷	Workspace拡張・管理コンソール設計（詳細は管理機能次第）。 ³⁷	エージェント/コネクタを管理センターで制御可能。 ³⁸

比較軸	Claude Cowork	GPT-4o (OpenAI) / ChatGPT Business・ Enterprise	Google Gemini (Workspace内)	Microsoft Copilot (Microsoft 365 Copilot)
セキュ リティ・ アクセス 制御	“付与したローカル 権限”が実質境界。 削除は明示許可。 13	SAML SSO、管理者 ロール、暗号化、業 務データは原則学習 除外。 17	DLP/IRM/CSE等で アクセス制御を制限 できる。 32	テナント境界で権限 尊重、Purviewラベ ル/暗号化を尊重。 24
データ 保持・ ログ	会話履歴はローカ ル、監査ログ/ Compliance API/エ クスポート対象外。 規制業務不可。 2	Compliance Logsは 30日保持、長期は 自社保持が前提。 19	Geminiログイベン ト/監査ログのAPI提 供。 22	Copilot/AIアプリの 監査ログ、保持180 日等の説明。 25
カスタ マイズ 性	フォルダ指示、プラ グイン、MCPで役割 別に調整。 1	内部ソース接続・ (プラン次第で)保 持や機能制御。 18	標準/拡張/Ultraで 利用上限を段階化。 39	エージェント管理や コネクタ統合、テナ ント統制を前提。 38
API/SDK	“端上エージェント”のため、統制は 運用設計が中心 (MCP含む)。 40	API提供は継続 (GPT-4o含むが ChatGPT側は廃 止)。 41	Gemini API価格表 等が公開 (別途開発 要)。 42	コネクタ/監査/管理 のエコシステム (詳 細は実装次第)。 43
日本語 品質	“モデル差”より、社 内資料・特許文献で の自社評価が必須 (後述)。 44	同上。加えて GPT-4oはChatGPT から廃止で、UI評価 は現行モデルで行う 必要。 9	対応言語は管理者へ ルプに明記される。 45	サポート言語一覧へ の誘導あり (公 式)。 46

知財業務でのユースケースと実装ワークフロー

知財業務は「正確性」「説明責任」「秘匿性」が高く、AIは“下書き・整理・比較・抜粋”に強い一方、最終判断と検証は人に戻す設計が必要です。 47

この前提は、政府ガイドラインでも「精度とリスクを理解し、リスク要因を確認した上で利用」「個人情報や機密情報を不適切に入力しない」等として整理されています。 48

典型ワークフロー（知財業務向け：AIを“作業員”として使うが、決裁は人）

flowchart TD

- A[案件受付・目的定義] --> B[データ区分判定
機密/個人情報/対外秘?]
- B --> |高| C[統制型環境へ
監査ログ・保持・DLP前提]
- B --> |低～中| D[Cowork利用可領域へ
専用フォルダ・最小権限]
- C --> E[根拠資料収集
社内DMS・メール・会議・出願管理]
- D --> F[作業フォルダ準備
マスキング/抜粋/要約素材化]
- E --> G[AIで分析/起案/比較表作成]
- F --> G
- G --> H[人による検証
引用確認・原典突合]

H --> I[上長/弁理士レビュー・承認]
I --> J[成果物登録
出願管理・ナレッジDB]

この「環境分岐」は、Coworkが監査ログ等に記録されず規制業務に不適である、という公式制約から導かれる実装上の要点です。 ②

ユースケース別：期待効果・リスク・実装の勘所（知財部門向け）

ユースケース	期待効果（AIが得意）	主なリスク（知財で致命的になり得る点）	実装ワークフロー（例）	必要ガバナンス（最低限）
特許調査 / 先行技術調査	多数資料の要約、類否観点の整理、比較表（発明特徴×文献）の作成。 ④⑨	誤引用・幻覚、出典不明の断定、検索式や母集団の偏り。弁理士は検証責任を負う。 ④⑦	（統制型）社内/DBから原文取得→AIで論点整理→原典突合→報告書化。ログ保存可能な環境が望ましい。 ⑤⑩	①検索式・対象範囲の記録、②引用は原典リンク/番号必須、③レビュー者の承認ログ。 ⑤⑪
明細書作成支援	既存メモ/実験記録から構成案・実施形態のたたき台を作る。 ⑤②	未公表情報の漏えい、表現の法的妥当性不足、ハルシネーション混入。 ⑤③	Coworkは「整形・構成案」寄りに限定（専用フォルダにマスキング版を置く）。機密原本は統制型で扱う。 ⑤④	①入力禁止ルール（機密/個人/クライアント識別情報）、②ドラフトは必ず弁理士が再構成、③版管理。 ⑤⑤
クレーム草案	依頼者要件→独立/従属の候補展開、用語の一貫性チェック。 ⑤⑥	過度に広い/狭い、禁反言やサポート要件との不整合、引用発明との混同。最終責任は人。 ⑤	①要件入力（抽象化）→②候補生成→③明細書サポート確認→④拒絶理由を想定した修正。 ⑤⑦	①クレームレビュー会議（人）を必須化、②プロンプト/テンプレを固定化し再現性確保。 ⑤⑧
侵害分析（FTO含む）	クレーム要件分解、侵害論点のチェックリスト化、対応表ドラフト。 ⑤⑨	誤った法解釈や断定、開示制限情報の混入、監査証跡不足。Coworkは規制/監査用途に不適。 ⑥⑩	原則：監査ログが取れる統制型環境+人レビュー。Coworkは“表作成・整形”に限定。 ⑥①	①証跡（入力・出力・参照資料）保存、②法務レビュー、③アクセス権の棚卸。 ⑥②
契約書レビュー（共同研究・ライセンス等）	条項要約、論点抽出、修正案の初稿。 ⑥③	条項の意味取り違い、交渉方針の漏えい、相手方秘密情報の再利用問題。 ⑥④	統制型環境で条項要約→人が原文突合→修正案は弁護士/弁理士が確認。 ⑥⑤	①入力データの契約上制約確認、②テンプレ化、③ログ監査。 ⑥⑥
出願管理	期限管理の要約、案件ステータスの自動レポート、提出書類チェックリスト生成。 ⑥⑦	スケジュール誤作動、誤更新、権限逸脱。スケジュール実行は監視が難しい。 ⑥⑧	Coworkのスケジュールは低リスク用途から（例：週次サマリー作成）。重要更新は人承認。 ⑥⑧	①“自動でやってよいこと/だめなこと”を定義、②結果レビューを運用化。 ⑥⑨

ユースケース	期待効果 (AIが得意)	主なリスク (知財で致命的になり得る点)	実装ワークフロー (例)	必要ガバナンス (最低限)
ナレッジ共有 (拒絶理由対応、用語集、社内標準)	大量ドキュメントの要約・体系化、テンプレ生成。 70	間違った標準が定着、出典不明、権限外情報の混入。 71	①承認済み資料のみをコーパス化→②AIで再構成→③レビュー→④社内公開。 51	①ナレッジの版管理、②引用元提示、③アクセス制御。 71
教育・トレーニング	新任知財担当向けのケース教材化、FAQ生成、模擬レビュー。 72	誤情報教材化、社外秘事例の混入。 5	架空/公開データで教材作成→人が検証→社内研修へ。 73	①教材ソースの明確化、②監修者を明示、③プロンプトテンプレの固定。 74

法的・コンプライアンス留意点とガバナンス設計

知財業務では「機密保持」「正確性」「説明責任」が不可分です。政府ガイドラインは、AI利用者に対し、出力の精度/リスク理解、リスク要因確認、個人情報や機密情報を不適切に入力しない注意、提供者のセキュリティ留意点遵守、などを明示しています。⁴⁸

また情報処理推進機構⁷⁵のガイドラインは、組織が生成AIを安全に導入・運用するためのリスクと対策を具体化する位置づけを示し、透明性（参照元の明示など）の重要性も述べています。⁷⁶

データ主権と処理場所

Claude側は、コンプライアンス/認証（SOC 2 Type 2やISO/IEC認証等）や、リージョナルエンドポイントによるデータ保存・推論処理の地理的境界指定（日本を含む）を説明しています。⁷⁷

一方、知財実務でより切実なのは「どの操作が、どこに、どの粒度で記録されるか」です。Coworkは監査ログ等に記録されないため、「**証拠が要る業務**」の実行環境としては設計不一致が起きます。²

機密情報取り扱いとプロンプト・インジェクション

Coworkはエージェント性とインターネットアクセスにより特有リスクがあり、機密ファイル権限付与の回避、信頼できるサイトに限定、プロンプト・インジェクション兆候の監視、未知のMCP/プラグインに注意、などの実務的助言が提示されています。³

また、コネクタは第三者がMCPで構築し、OAuth接続時に各提供者の規約/プライバシーポリシーが提示されるため、「**接続前審査（契約・データ保持・再委託）**」を省略しないことが重要です。⁷⁸

加えて、Anthropicのソフトウェアディレトリポリシーは、プライバシー保護、必要最小限のデータ収集、会話データの過剰収集禁止、知財権侵害の禁止等を要求しています。⁷⁹

知財担当としては、「**ディレトリに載っている = 自社基準で安全**」ではない前提で、社内の情報区分・委託先管理・秘密保持の要件に照らした審査が必要です。⁸⁰

ログ保存・説明責任

Microsoft 365 Copilotはテナント境界の権限尊重や、監査ログ（Copilot/AIアプリ）を説明し、監査ログ保持（180日等）にも触れています。⁸¹

Google Workspace側も、Geminiログイベントや監査ログの参照・API提供を案内しています。²²

ChatGPT側は、Compliance Logs Platformが30日保持で、長期保持は自社でダウンロード・保管する設計を要求しています。¹⁹

知財実務では、拒絶理由対応や侵害評価など「後日、判断根拠を説明できること」が重要であり、ログ保存は“セキュリティ”だけでなく“説明責任”の一部になります。これはデジタル庁⁸²の生成AI調達・利活用ガイドライン策定の趣旨（利活用促進とリスク管理を一体で進める）とも整合します。⁸³

導入チェックリストと推奨設定

Coworkを含む生成AI導入は「技術」「法務」「運用」を同時に満たさないと破綻します。以下は知財部門での導入に必要なチェックを、**Cowork固有の注意点**（監査ログが取れない、Web検索が例外、MCP/プラグインの攻撃面など）を織り込んで整理したものです。⁸⁴

導入チェックリスト（技術・法務・運用）

項目	チェック観点	推奨（知財部門の実務）	根拠例
利用範囲の定義	どの業務をAIに通すか（調査/起案/レビュー/管理）。機密区分で可否を決めるか。	「環境分離（統制型 vs Cowork）」を原則化。特に係争/契約/出願前の発明詳細は統制型を優先。	Coworkは監査ログ等に残らず規制業務不可。 ²
データ入カールール	個人情報・営業秘密・クライアント秘の扱い。	入力禁止（または要マスキング）を明文化し周知。	AI利用者は個人情報/機密情報を不適切に入力しない注意。 ⁴⁸
人間レビュー	誰がどの粒度で検証し責任を負うか。	すべての対外成果物（出願書類、FTO、契約修正）は人が原典突合し承認記録を残す。	弁理士は生成物の正確性確認が必要、無検証提供は義務違反のおそれ。 ⁵
ログ/証跡	監査ログ・保持期間・エクスポート可否。	監査が必要な業務は、監査ログを提供する基盤を選ぶ。Cowork利用時は別途“案件台帳に入力/出力を保存”運用が必要。	Coworkは監査ログ/Compliance API/エクスポート対象外。 ²
コネクタ/MCP審査	接続先の規約・再委託・データ保持・権限範囲。	「接続申請→法務/セキュリティ審査→許可リスト化」。未知のMCPは原則禁止。	コネクタは第三者実装で規約/プライバシーは各社。 ⁸⁵
ブラウザ/検索の統制	Webが攻撃面（プロンプト・インジェクション）。	Coworkでのブラウザ連携/拡張利用は最小化。信頼サイトのみ。Web検索ツールは例外がある点を周知。	Webは主要な注入ベクタ。Web検索はエグレス制限が効かない、等。 ⁵⁴
スケジュール実行	無監視で動くタスクの危険性。	低リスク定型（要約・整理）のみに限定。出力は毎回レビュー。不要時は停止。	スケジュールは自動実行で監視できないため注意、等。 ⁶⁸
価格/課金管理	追加クレジット、従量課金、超過料金、ログ課金。	調査・起案の“上限超過”を見込んで予算化。監査ログや追加サービス課金も含めTCOで評価。	Microsoft 365 Copilot価格、Googleの拡張/Ultra設計、監査ログ課金等。 ⁸⁶

項目	チェック観点	推奨（知財部門の実務）	根拠例
教育	誤情報・入力禁止・引用/検証の習慣化。	「プロンプトテンプレ」「引用必須」「原典突合」「禁止入力」研修を定例化。	ガイドラインはリスク理解と適切利用を求める。 87

Cowork利用時の“推奨設定”（知財部門向けの現実解）

- ・専用作業フォルダを作り、広範なローカルアクセスを避ける（最小権限）。¹³
- ・スケジュールタスクは「要約・整理」など低リスクに限定し、実行後レビューを必須化。⁶⁸
- ・MCP/プラグインは“許可リスト方式”（第三者規約・データ保持を審査してから接続）。⁸⁸
- ・“規制/監査が必要な案件”はCoworkに載せない（監査ログ・Compliance API等に残らないため）。²
- ・対外提出物は必ず人間が原典突合し、承認記録を残す（弁理士責任・善管注意義務の観点）。⁵

結論と推奨

Coworkは、知財実務のうち「整形・整理・比較表・ドラフト生成」のような“時間が溶ける作業”を、ローカルファイル操作と長時間タスクで圧縮できる点が魅力です。¹
しかし、公式に「監査ログ・Compliance API・データエクスポートに残らず、規制業務に使うな」と明示されている以上、**知財部門では“用途分離”が前提条件**です。²

推奨は次の三点に集約されます。

第一に、**二層運用**です。

(A) 監査・保持・DLPが必要な知財業務（侵害評価、契約交渉、係争、出願前の発明詳細等）は、監査ログや管理者統制が設計に組み込まれた基盤（Microsoft 365 Copilot/Workspace内Gemini/ChatGPT Business/Enterprise等）を起点にする。⁸⁹

(B) Coworkは「専用フォルダ×最小権限×低リスクタスク」で、表作成・ドラフト整形・学習用素材化に寄せる。⁹⁰

第二に、**弁理士/知財担当としての責任を前提にしたレビュー体制**です。生成物の正確性は保証されず、最終責任は専門職が負う、という立場を運用設計に落とします。⁵

第三に、**コネクタ/プラグインの審査・ログ設計・テンプレ化**です。MCP/コネクタは強力な反面、第三者規約と攻撃面を持つため、許可制・権限レビュー・禁止入力・引用必須・プロンプトテンプレの標準化を“導入前”に決めてから展開すべきです。⁹¹

¹ ² ⁸ ¹¹ ¹² ³⁶ ⁴⁹ ⁵⁹ ⁶⁰ ⁶⁷ ⁸⁴ <https://support.claude.com/en/articles/13345190-get-started-with-cowork>

<https://support.claude.com/en/articles/13345190-get-started-with-cowork>

³ ⁷ ¹³ ⁵⁴ ⁶⁸ ⁶⁹ ⁹⁰ <https://support.claude.com/en/articles/13364135-using-cowork-safely>

<https://support.claude.com/en/articles/13364135-using-cowork-safely>

⁴ ⁶ ²⁴ ³⁸ ⁸¹ <https://learn.microsoft.com/en-us/copilot/microsoft-365/microsoft-365-copilot-privacy>

<https://learn.microsoft.com/en-us/copilot/microsoft-365/microsoft-365-copilot-privacy>

- 5 44 47 53 57 64 73 <https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-guideline.pdf>
<https://www.jpaa.or.jp/cms/wp-content/uploads/2025/04/AIservices-guideline.pdf>
- 9 <https://help.openai.com/ja-jp/articles/11481834-chatgpt-%E6%96%99%E9%87%91%E8%A1%A8businessenterpriseedu>
<https://help.openai.com/ja-jp/articles/11481834-chatgpt-%E6%96%99%E9%87%91%E8%A1%A8businessenterpriseedu>
- 10 25 43 50 61 62 65 75 89 <https://learn.microsoft.com/en-us/purview/audit-copilot>
<https://learn.microsoft.com/en-us/purview/audit-copilot>
- 14 34 78 85 88 91 <https://claude.com/connectors>
<https://claude.com/connectors>
- 15 79 <https://support.claude.com/en/articles/13145358-anthropic-software-directory-policy>
<https://support.claude.com/en/articles/13145358-anthropic-software-directory-policy>
- 16 40 <https://www.anthropic.com/news/model-context-protocol>
<https://www.anthropic.com/news/model-context-protocol>
- 17 29 56 70 <https://chatgpt.com/business/business-plan/>
<https://chatgpt.com/business/business-plan/>
- 18 <https://openai.com/enterprise-privacy/>
<https://openai.com/enterprise-privacy/>
- 19 <https://help.openai.com/es-es/articles/9261474-compliance-api-for-enterprise-customers>
<https://help.openai.com/es-es/articles/9261474-compliance-api-for-enterprise-customers>
- 20 <https://help.openai.com/ja-jp/articles/9687866-admin-and-audit-logs-api-for-the-api-platform>
<https://help.openai.com/ja-jp/articles/9687866-admin-and-audit-logs-api-for-the-api-platform>
- 21 30 32 52 63 <https://workspace.google.com/intl/ja/solutions/ai/>
<https://workspace.google.com/intl/ja/solutions/ai/>
- 22 <https://knowledge.workspace.google.com/admin/reports/gemini-for-workspace-log-events>
<https://knowledge.workspace.google.com/admin/reports/gemini-for-workspace-log-events>
- 23 37 39 72 <https://workspaceupdates.googleblog.com/2026/02/google-workspace-ai-expanded-access.html>
<https://workspaceupdates.googleblog.com/2026/02/google-workspace-ai-expanded-access.html>
- 26 31 <https://www.microsoft.com/en-us/microsoft-365/blog/2026/03/09/copilot-cowork-a-new-way-of-getting-work-done/>
<https://www.microsoft.com/en-us/microsoft-365/blog/2026/03/09/copilot-cowork-a-new-way-of-getting-work-done/>
- 27 <https://learn.microsoft.com/en-us/copilot/microsoft-365/connect-to-ai-subprocessor>
<https://learn.microsoft.com/en-us/copilot/microsoft-365/connect-to-ai-subprocessor>
- 28 <https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-365-copilot/extensibility/overview-copilot-connector>
<https://learn.microsoft.com/en-us/microsoft-365-copilot/extensibility/overview-copilot-connector>
- 33 <https://learn.microsoft.com/en-us/copilot/microsoft-365/microsoft-365-copilot-architecture-data-protection-auditing>
<https://learn.microsoft.com/en-us/copilot/microsoft-365/microsoft-365-copilot-architecture-data-protection-auditing>
- 35 <https://knowledge.workspace.google.com/admin/gemini/generative-ai-in-google-workspace-privacy-hub>
<https://knowledge.workspace.google.com/admin/gemini/generative-ai-in-google-workspace-privacy-hub>

- 41 <https://help.openai.com/en/articles/20001051-retiring-gpt-4o-and-other-chatgpt-models>
<https://help.openai.com/en/articles/20001051-retiring-gpt-4o-and-other-chatgpt-models>
- 42 <https://ai.google.dev/gemini-api/docs/pricing>
<https://ai.google.dev/gemini-api/docs/pricing>
- 45 <https://knowledge.workspace.google.com/admin/getting-started/editions/compare-google-ai-expansion-add-ons?hl=ja>
<https://knowledge.workspace.google.com/admin/getting-started/editions/compare-google-ai-expansion-add-ons?hl=ja>
- 46 86 <https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365-copilot/pricing>
<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365-copilot/pricing>
- 48 55 66 80 82 87 https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/pdf/20250328_2.pdf
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/ai_shakai_jisso/pdf/20250328_2.pdf
- 51 71 74 76 https://www.ipa.go.jp/jinzai/ics/core_human_resource/final_project/2024/f55m8k0000003spo-att/f55m8k0000003svn.pdf
https://www.ipa.go.jp/jinzai/ics/core_human_resource/final_project/2024/f55m8k0000003spo-att/f55m8k0000003svn.pdf
- 58 83 <https://www.digital.go.jp/news/3579c42d-b11c-4756-b66e-3d3e35175623>
<https://www.digital.go.jp/news/3579c42d-b11c-4756-b66e-3d3e35175623>
- 77 <https://claude.com/ja-jp/regional-compliance>
<https://claude.com/ja-jp/regional-compliance>